

## MELONcafe プチ講座「トーク&エコ・レッスン」

MELON では、どなたでも気軽に立ち寄れるよう事務局を“MELONcafe”と銘打ち、環境情報の提供・書籍貸出等と、毎月 1 時間だけのプチ講座「トーク&エコレッスン」を開催しています。

5月「アクリルたわしでナチュラルクリーニング」  
16日(土)13:30～ 21日(火)18:30～

アクリル毛糸から、道具を使わず指だけで編み上げる指編みで、アクリルたわしを作りました。アクリルたわしは、その繊維が汚れをかき取り、弾力が洗い物の表面に密着して洗剤なしでも汚れを落とします。皆さん編み始めは少し苦戦していましたが、すぐに感覚をつかみ、自分の手からどんどんできていく楽しさに夢中になっていました。



6月「マイ箸袋で持ち歩きましょう」  
20日(土)10:30～、23日(火)18:30～

1人あたり1年間で200膳、日本全体では約250億膳使われている割り箸。この大量の割り箸は、ほとんどが海外からの輸入で、森林を一斉に伐採し、エネルギーを使って運ばれてきます。

そこで、マイバッグの次はマイ箸！持ち歩くのに便利な箸袋を作りました。材料は使わなくなった古布やボタンで、およそ1時間弱で簡単にオリジナルのマイ箸袋ができあがりました。



9月のプチ講座「『窓辺ハーブ』でエコライフ」  
1回目9/17(木)18:30～ 2回目9/19(土)13:30～  
【参加費】300円 【定員】各回10名程度 \*要・申し込み



### 豚とインフルエンザ

鳥インフルエンザに感染したため、養鶏場の何万羽というニワトリが処分されるシーンは胸にズシーンとくるものがありました。空を飛ぶ鳥に「ピーーツ、そこに入っちゃダメ！」などと規制のしようがありませんから、せめて養鶏場のニワトリに拡声器でも使って「いい子だからね。決して見知らぬ鳥に近づいちゃダメだよ。」と言い含めておかなければなりません。

今回、新型豚インフルエンザのニュースが大きくなったとき、私はすぐさま、「うわっ、今度は豚だ！」ということで、子どもが小さい頃笑い転げて読んだこの本を思い出してしまいました。矢玉四郎 作・絵「はれときどきぶた」(岩崎書店、1980年)。

お母さんに日記を見られた主人公島山則安のりやすは、お母さんをぎゃふんと言わせるために、わざと日記にヘンテコなことを書いたのです。ところが、そのヘンテコが次々と現実になっていくではありませんか。6月7日の日記「6月7日はれときどきぶた、きょうの天気は、はじめははれていましたが、ごごから

ぶたがふりました。……」

さて、このあとどうなったのでしょうか。これこそ『水際で食い止める』わけにはいかないでしょう。ぜひ読んでみてくださいね。ヘンテコな現実の中で、則安の家族の行動がじつにリアルにヘンテコなのです。こういうときはこうするんだろうなあと思わず笑ってしまいます。

さて、私たちの世界では、いつの間にか新型豚インフルエンザの正体が少しずつわかりかけてくると、このインフルエンザは「新型インフルエンザ」と呼ばれ、『豚』が人々の口から消えてしまいました。少し寂しい気もします。「豚に罪はない」と嘆くことに終わらず、クローン豚が安全だと食品安全委員会が答申するニュースなどを見ていると、ブルブルとし、大規模な養鶏場や養豚場に食料を依存している私たちには本当に罪がないのだろうかとあらためて自分の食生活を考えたいのです。そして、せめて『豚』を忘れないために、「ぼくとときどきぶた」(岩崎書店、1988年)「あしたぶたの日ぶたじかん」(1985年)と梯子をし、ついにはインフルエンザの世界的な流行も視野に入れて「Tomorrow is PIG DAY! and PIG TIME! (「あしたぶたの日ぶたじかん」英語版)」まで、読んでしまってもいいのです。

